

# 複数領域統合型世帯調査に関する調査研究

令和 7 年11月28日

総務省統計委員会担当室

# 本報告について

今年度は、統計委員会担当室における令和5・6年度の委託研究結果を踏まえて、複数領域統合型世帯調査の調査実施上の課題や留意点について、インターネットによる試行調査とそのデータ分析を通じて検証する。  
本稿では、令和5・6年度の委託研究の中でも特に今年度に関わる部分について振り返りつつ、今年度の研究の目的についてご報告を行う。

## 1. はじめに

## 2. 令和5年度委託研究

## 3. 令和6年度委託研究

## 4. 令和7年度委託研究

# 1. はじめに

---

# 1. 1 複数領域統合型世帯調査

- 社会統計において代表的な世帯調査は、個別領域に着目した調査として重要な役割を果たしてきた。その一方で、複雑化する社会経済状況をよりクリアに描き、かつ多様な社会的ニーズに対応するためには、異なった領域をまたがった個人・世帯の状況を総合的に把握することが重要である。



- こうした問題意識のもと、統計委員会担当室では、令和5～7年度にかけて、「**複数領域統合型世帯調査**」（医療、教育、労働など複数の領域について調査する世帯調査）に関する委託研究を実施。

# 1. 2 令和5～7年度の委託研究概要

## ■ 令和5年度

欧米諸国や国際機関等における複数領域統合型世帯調査の事例を中心に調査を行い、その調査方法・有用性ととともに、そこに含まれる主観指標・主観的ウェルビーイング指標の測定・意義等について調査を行った。



## ■ 令和6年度

アジアにおける複数領域統合型世帯調査及び主観指標・主観的ウェルビーイング指標について、その調査方法や活用方法・有用性などについて調査を行った。



## ■ 令和7年度

令和5・6年度の研究成果を踏まえて、**試行調査（インターネット調査）を実施し、収集したデータなどの分析を行うことで、複数領域統合型世帯調査の調査実施上の課題・留意点について調査を行う。**

## 2. 令和5年度委託研究

---

## 2. 1 欧州の複数領域統合型世帯調査：EU-SILC

- EUの所得・生活状態統計（EU-Statistics on Income and Living Conditions：EU-SILC）は、Eurostat（ユーロ圏統計局）が実施している複数領域統合型世帯調査である。EU加盟国の複数領域にわたるデータを収集し、政策立案・評価に活用することを目的としている。
- 調査対象は、EU加盟国 27 か国および非加盟国 9 か国における、サンプリングされた20万の世帯及び40万人の個人。
- 調査項目は、①個人と世帯、②住宅、③健康、④労働、⑤教育、⑥経済状況（所得、消費、財産）、⑦生活の質、⑧ウェルビーイング、⑨生活状況等の幅広いトピックにわたって設定されている。**全体で約260項目ある中、客観指標とともに、主観指標に係る項目があることが特徴。**

※主観指標…回答者の自己報告によって得られた心・精神の状態を測定する指標  
（↔客観指標…主観指標以外の指標）

## 2. 1 欧州の複数領域統合型世帯調査：EU-SILC

- EU-SILCにおいて設定されている主観指標／客観指標の例は、調査項目分類に応じて以下のとおり。

調査項目分類	主観指標	客観指標
①収入	収入への満足度	世帯の総収入、社会保障収入、年金収入 等
②貧困	家計の財政状況への満足度	物質的貧困、こどもの貧困、財務能力 等
③社会的排除	他者への信頼	スポーツ活動の状況、芸術活動の状況、ボランティア活動の状況、月に1回友人や親戚に会うか 等
④住居	住居の状況への満足度	住居の種類、家の価格、部屋数、コンピューターとインターネットの使用
⑤労働	職業への満足度	就労状況、雇用形態、監督責任、契約期間、職場の従業員数 等
⑥教育	(該当なし)	最終学歴、学位の種類、就業状況、研修・職業訓練の状況 等
⑦健康	主観的健康	障がいの有無と程度、医療へのアクセス、通院した診療科、こどもの健康状態 等

## 2. 2 主観的ウェルビーイング指標に関する取組

### ■ スティグリッツ報告書（2009年）の提言

各国統計機関は、主観的ウェルビーイングに関する質問を標準的な調査に組みこみ、その規定要因を理解できるようにするべきである。

→2013年に“OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being”が公表された。OECDでは、その改訂へ向けて取組を進め、2025年に“OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being (2025 Update)”が公表された。（この後事務局よりご説明）

■ 日本では、内閣府が2019年から毎年「満足度・生活の質に関する調査」を行うなど様々な取組が行われている。また、地方自治体では、主観的ウェルビーイング指標の活用が進められている。

## 2. 3 主観的ウェルビーイング指標を構成する下位概念

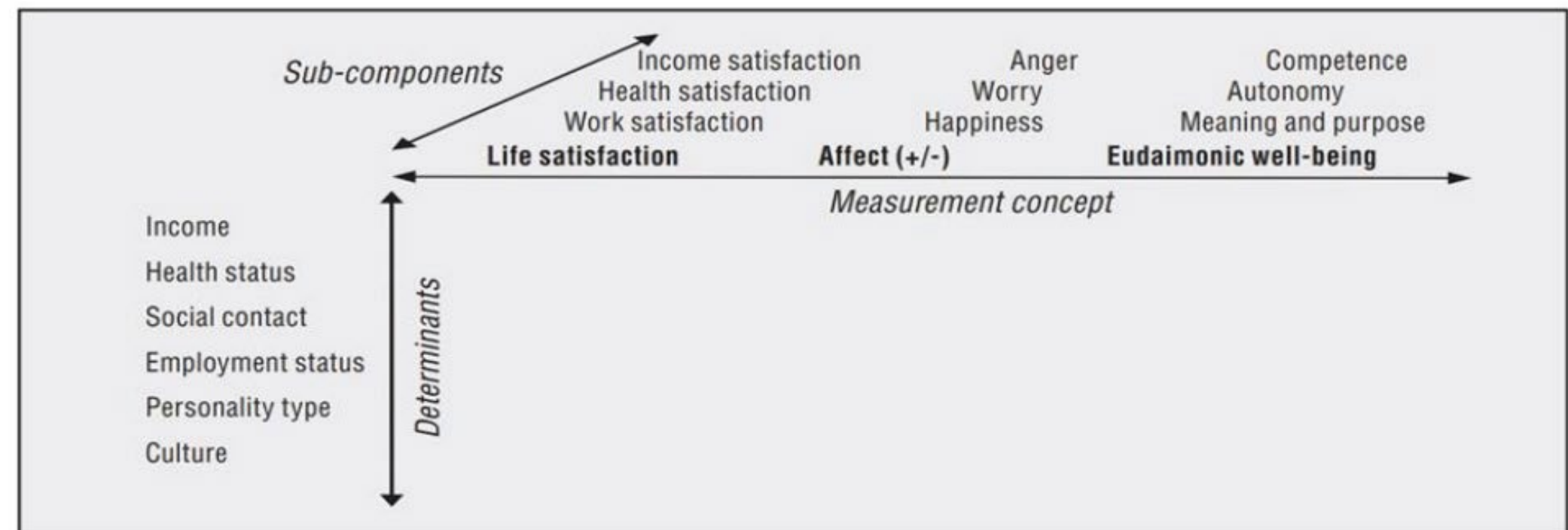
- OECD (2013) では、主観的ウェルビーイングを構成する下位概念として、以下の 3 つの概念が挙げられている。

生活評価 (Life evaluation) : ある人の生活またはその特定側面に対する自己評価。

感情 (Affect) : ある人の気持ちまたは情動状態、通常は特定の一時点を基準にして測る。

ユーダイモニア (Eudaimonia) : 人生における意義と目的意識、または良好な精神的機能。

- さらに上記 3 つの概念のそれぞれに複数の副次的項目 (Sub-components) が存在する。
- また主観的ウェルビーイングに影響を与える因子として、所得や健康状態等の決定要因 (Determinants) が挙げられる。



## 2. 4 主観的ウェルビーイング指標の具体例

### ■ キャントリルの階段（生活評価に関する代表的な尺度）

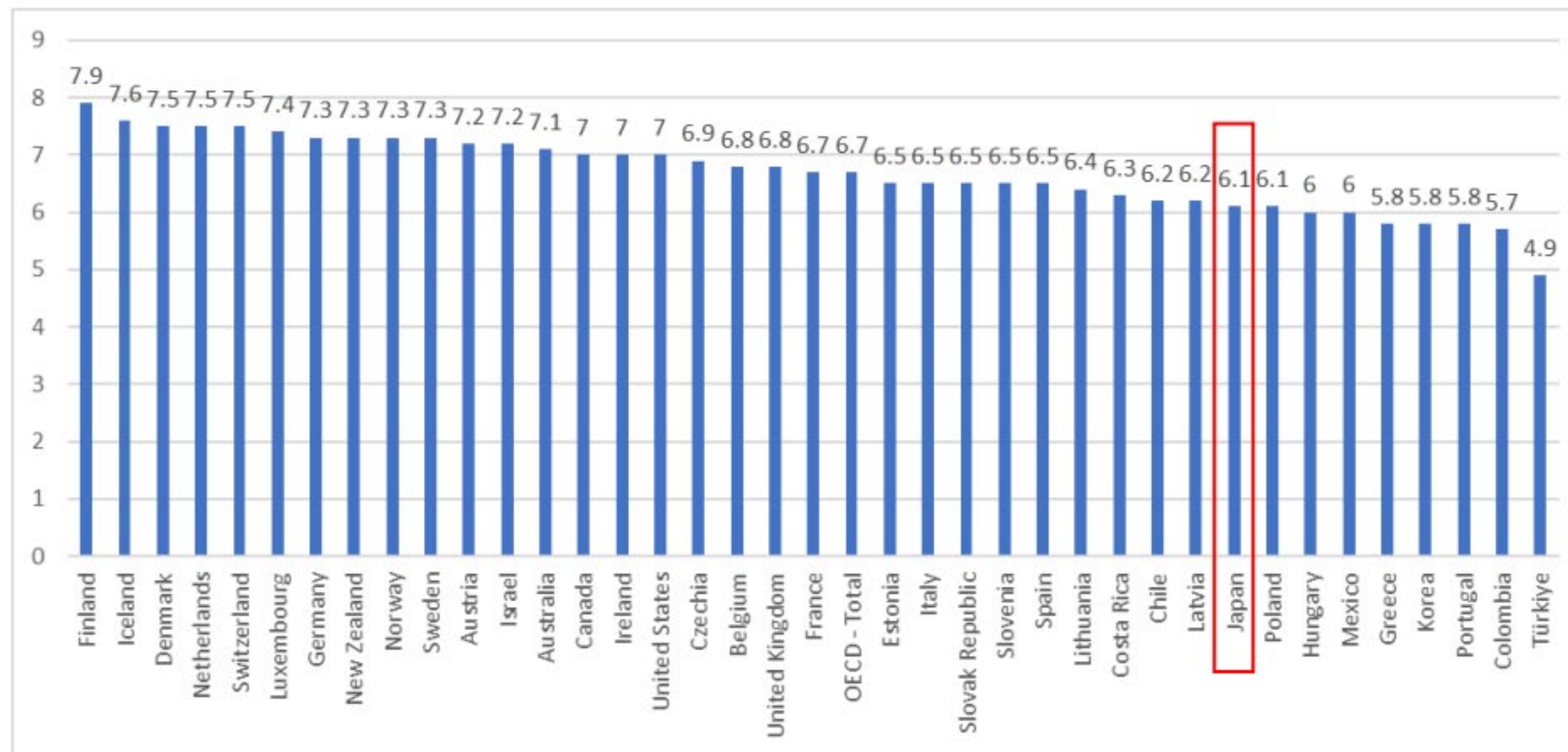
階段を想像してください。それぞれの段には一番下が0、一番上が10までの番号が振られています。階段の一番上は、あなたにとって考えられる最高の人生を表し、一番下は考えられる最悪の人生を表しています。現在、あなたは自分がその階段のどの段に立っていると思いますか。

上記の質問文に対し、0-10の11件法で回答

「キャントリルの階段」は広く活用され、国連の世界幸福度調査（World Happiness Report）やギャラップ世論調査（Gallup World Poll）などで採用されている。

## 2. 5 主観的ウェルビーイング指標の留意事項

- Better Life Index のデータに基づく OECD 加盟国のみの「キャントリルの階梯」のスコアのランキング（全 38 各国）



➡ 日本の生活満足度は全38か国中30位である。しかし、（1）回答の癖や（2）幸福感の違いなど様々な要因が指摘されている。

## 2. 5 主観的ウェルビーイング指標の留意事項

### ■ (1) 回答の癖

#### ✓ 中心化傾向バイアス (“Moderate responding”)

アフリカやアジアのような集団主義的な文化の人々は、他人と異なる可能性のある極端な回答を避け、中間的な選択肢（例：7件法における4）を選択する傾向があるのに対し、ラテンアメリカやイタリアの人々は極端な選択肢（例：7件法における1や7）を選択しやすい傾向が指摘されている。（Streiner et al. 2014=2016）

⇒韓国でも中間的な選択肢を選択する傾向が見られ、その点については質問文を工夫している。（後述）

#### ✓ 社会的に望ましい回答 (“Socially desirable responding”)

回答者が実際とは異なる社会的に望ましい回答をする傾向がある。（Streiner et al. 2014=2016）

### ■ (2) 幸福感の違い

自分自身で幸福な状態を定義して、その自己評価を答える方式では、文化による幸福感の違いが影響する。日本や東アジア諸国の特徴として、個人主義的な価値観にとどまらない「協調的幸福感」という概念が提唱されている。

Streiner, David L, Geoffrey R. Norman and John Cairney, 2014, Health Measurement Scales: A practical guide to their development and use (5 edn), Oxford: Oxford Academic. (木原雅子・加治正行・木原正博訳, 2016, 『b—妥当性、信頼性からG理論、項目反応理論まで』メディカル・サイエンス・インターナショナル.)

### 3. 令和6年度委託研究

---

### 3. 1 令和6年度調査研究

- 令和6年度は、我が国と近い文化的価値観を有する国が存在すると考えられるアジアを中心に、複数領域統合型世帯調査や主観的ウェルビーイング指標に関する事例調査を行った。その中で、複数領域統合型世帯調査の調査票作成において、以下のような工夫を行っていることが明らかとなった。

#### ✓ 参照期間の明確化

満足度を問う際、工夫していることは参照期間を明確にした質問を入れていることである。具体的には、「あなたは昨日どの程度幸せでしたか」といったように参照期間を明確化して質問している。「あなたは幸せでしたか」といったような聞き方であると尺度の中央に偏る傾向にある質問も、参照期間を示すことで、回答が分散する傾向となるとのことである（大韓民国行政研究院：社会統合実態調査）。

#### ✓ 質問順序・配置に関する工夫

質問順序は、事実の確認のような回答しやすい質問から始まり、徐々に複雑で機微な情報に関する質問となるように並べられている。また質問はセグメントごとに分けられている（シンガポール住宅開発庁：HDBサンプル世帯調査）。

## 3. 2 EU-SILCと我が国の調査の調査票の比較

- 健康とウェルビーイングに関連する調査項目や回答選択肢について、EU-SILCの項目と内閣府「満足度・生活の質に関する調査」、我が国の複数領域統合型世帯調査（厚生労働省「国民生活基礎調査」、総務省「社会生活基本調査」）の項目を比較した結果以下3点の相違点が見られた。

### 1) 選択肢の尺度における副詞の使い方

例えば主観的健康の項目では、日本では「よい」が一番上位の尺度のラベルであるが、EU-SILCでは「非常によい（Very good）」が一番上位であった。

### 2) 選択肢「わからない」の有無

本邦実施3調査の調査項目に「わからない」の選択肢は存在しなかったが、EU-SILCにおいては複数の主観項目で「わからない」の選択肢が存在した。

### 3) 参照期間、例示の有無

例えば、「孤独感」の調査項目ではEU-SILCでは「過去4週間」と定義しているのに対し、日本の調査では「最近」としている。他にも、EU-SILCのみで調査されている項目である「幸福感」についても参照期間は「過去4週間」と定義されている。

### 3. 3 主観的ウェルビーイング指標に関する国際的な議論の動向

■ OECDでは、主観的ウェルビーイング指標について各国が参考にすることを目的とした OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being を2013年に公表している。

■ ガイドライン改定作業において Abdallah, S. and J. Mahoney (2024)は、ユーダイモニアの測定に関する新たな提案として、測定が推奨される要素と各要素を測定するための具体的な調査項目を提示している（右表）。

■ 上記改定作業を経て、2025年に“OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being (2025 Update)”が公表された。

図表 測定が推奨される要素と各要素を測定するための具体的な調査項目

Element	Item	Source
CORE		
Meaning and purpose	I generally feel that what I do in my life is worthwhile. (0-10 scale); Standalone version: Overall, to what extent do you feel that the things that you do in your life are worthwhile? (0-10 scale)	OECD Guidelines, VanderWeele et al. (2020)
Autonomy	I am able to do things that I really want and value in life (5-point Likert)	Martela & Ryan (accepted), Citizen's Pulse Finland
Relatedness	I feel close and connected with other people who are important to me (5-point Likert)	Martela & Ryan (accepted), Citizen's Pulse Finland
Competence & accomplishment	I can do things well and achieve my goals (5-point Likert) OR	Martela & Ryan (accepted), Citizen's Pulse Finland
	I've been feeling useful (last two weeks) (5-point frequency scale) OR	WEMWBS
	In my daily life I get very little chance to show how capable I am (5-point Likert).	ESS Well-being Module
STANDARD		
Personal growth & self-actualisation	For me, life has been a continuous process of learning, changing and growth. (7-point Likert Scale)	Shortened Psychological wellbeing Scale (Ryff & Keyes, 1995)
Self-esteem	In general, I feel very positive about myself (0-10 scale)	ESS Well-being Module, OECD Guidelines
Hope	Overall, how hopeful do you feel about your future? (0-10 scale)	ONS (with input from Carol Graham)
Vitality	How much of the time during the past week you had a lot of energy? (4-point frequency scale) OR	ESS Well-being Module, OECD Guidelines
	How often have you felt active and vigorous? (two weeks, 6-point frequency scale)	WHO-5
Interest	How often have you ... felt that your daily life has been filled with things that interest you? (two weeks, 6-point frequency scale)	New Zealand General Social Survey, WHO-5
EXPERIMENTAL		
Pursuit of challenge	Over the past two weeks, how often have you done something with the primary aim of pushing yourself or your abilities? (frequency scale)	New
Beneficence	I feel that my actions have a positive impact on the people around me (7-point Likert)	Martela & Ryan (2016)
Balance & harmony	In general, how often ... are the various aspects of your life in balance? (4-point frequency scale) OR	Gallup World Poll (Lomas, Ishikawa, et al., 2022)
	In general, how often ... are your thoughts and feelings in harmony? (4-point frequency scale)	Gallup World Poll (Lomas, Ishikawa, et al., 2022)

## 4. 令和7年度委託研究

---

## 4. 1 令和7年度委託研究について

- 令和7年度は、令和5～6年度の研究成果を踏まえて、複数領域統合型世帯調査の**調査票の設計や調査方法が結果に与える影響について検証**を行うことで、複数領域統合型世帯調査の**調査実施上の課題・留意点**を明らかにする。
- 具体的には、**試行調査（インターネット調査）**を実施し、**収集したデータ分析を行うことで検証**する。

## 4. 2 試行調査について

- 調査事項に関しては、諸外国や我が国における複数領域統合型世帯調査の例も踏まえつつ、データ分析の幅を広げる観点から、様々な分野の客観指標に加え、OECDガイドラインで議論されているユーダイモニアや感情など様々な主観指標を含めたうえで、複数領域を対象とする（結果として相応の数の調査事項となる）ことを想定。
- こうした調査事項について、調査実施の手法の観点からの分析・検証を行うことを目的とする。

ありがとうございました。

---